

検査内容変更のお知らせ

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
このたび、下記検査項目の内容を変更しますのでご案内いたします。

記

■実施日 令和3年3月31日(水) ご依頼分より

■変更内容

総合検査案内頁	検査項目	インフォメーションページ	総合検査案内頁	検査項目	インフォメーションページ
p32	トリプシン	p2	p100	バンコマイシン	p10
p111	トロンボモジュリン	p3	p111	ループスアンチコアグラント	p11
p45	ALP アイソザイム	p4	p45	LD アイソザイム	p12
p48	C-PAC16(アトピー)	p5	p88	CK-MB<UV 法>	
p38	NTx(腫瘍)	p6	p88	リパーゼ	
p96	NTx(骨粗しょう症)		p32	抗 IA-2 抗体	
p80	抗セントロメア抗体	p7	p37	CA54/61	
p85	クレアチン	p8	p44	酸化 LDL (MDA-LDL)	
p98	レベチラセタム	p9	p76	クラミドフィラ・シッタシ IgG	
p98	トピラマート		p76	クラミドフィラ・シッタシ IgM	
p98	ラモトリギン		p80	抗 LKM-1 抗体	
p99	ベプリジル				

詳細については次頁以降をご覧ください。

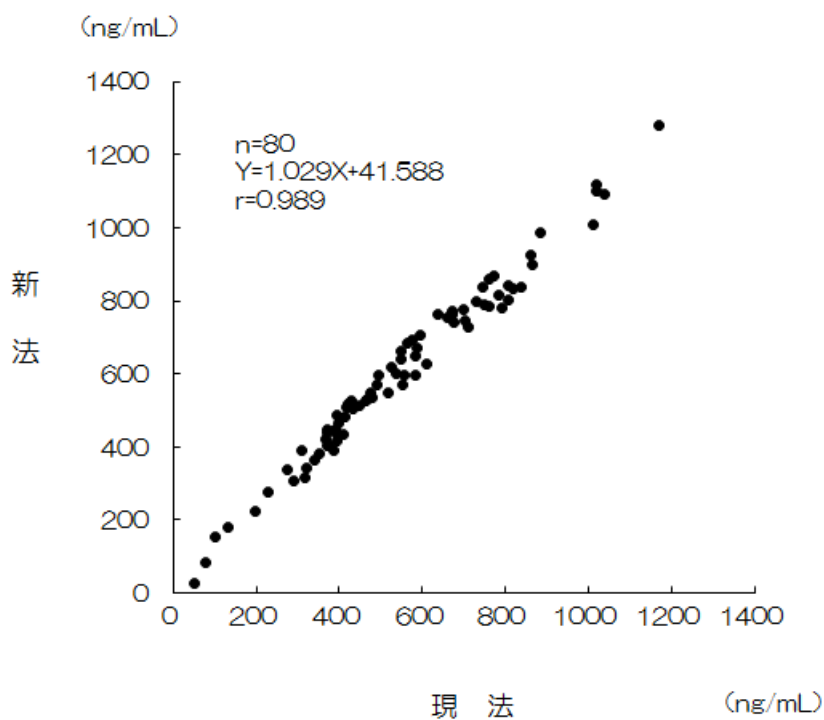
● トリプシン

全自動測定機器へ搭載可能な試薬へと変更。

これに伴い、項目コード、検査方法、基準範囲が変更、報告範囲が広がります。

総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
p32	0044-02	トリプシン	項目コード	5832-02	0044-02
			検査方法	ラテックス凝集比濁法	ELISA
			基準範囲 (単位)	210~570 (ng/mL)	100~550 (ng/mL)
			報告範囲	30 未満、 30~99900000	50 未満、 50~99900000

▼現法と新法の比較



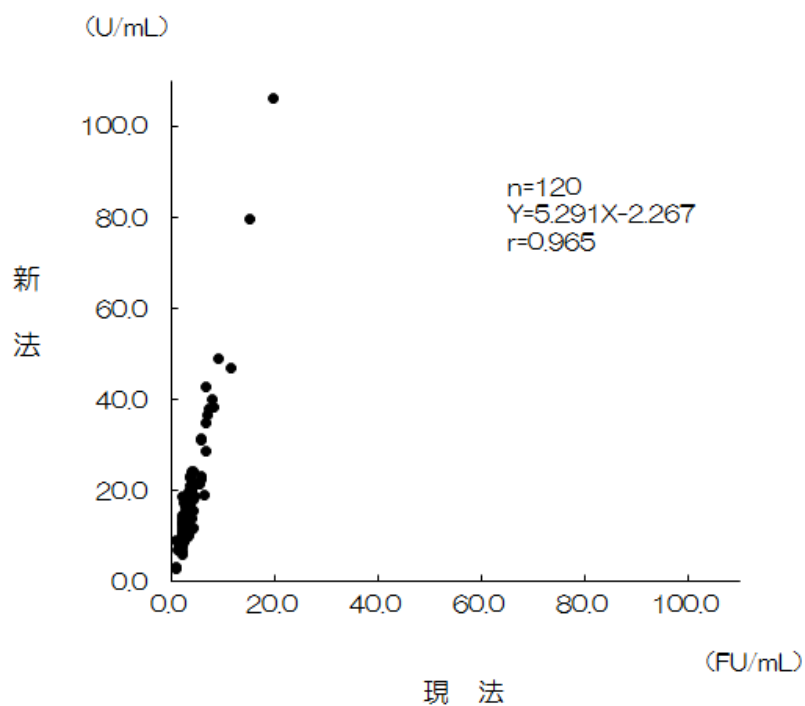
● トロンボモジュリン

全自動測定機器へ搭載可能な試薬へと変更。

これに伴い、項目コード、検査方法、単位、基準範囲、報告範囲が変更となります。

総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
p111	1078-02	トロンボモジュリン	項目コード	5765-02	1078-02
			検査方法	CLEIA	EIA
			単位	U/mL	FU/mL
			基準範囲	12.1~24.9	M 2.1~4.1 F 1.8~3.9
			報告範囲	5.0未満、 5.0~199、200以上	1.0以下、 1.1~31.9、32.0以上

▼現法と新法の比較



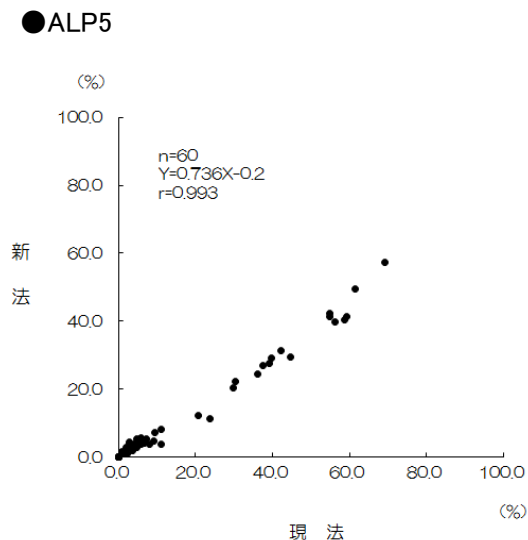
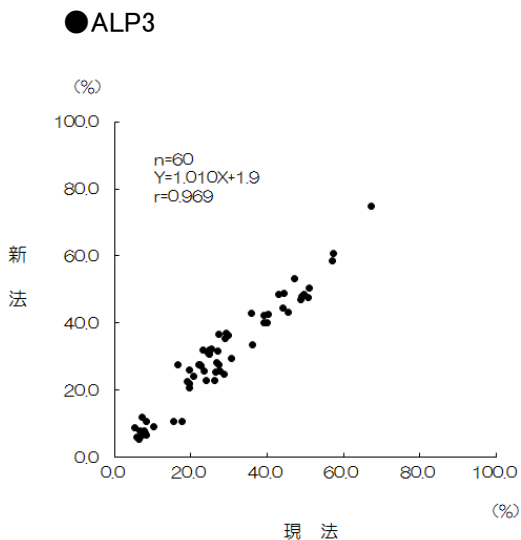
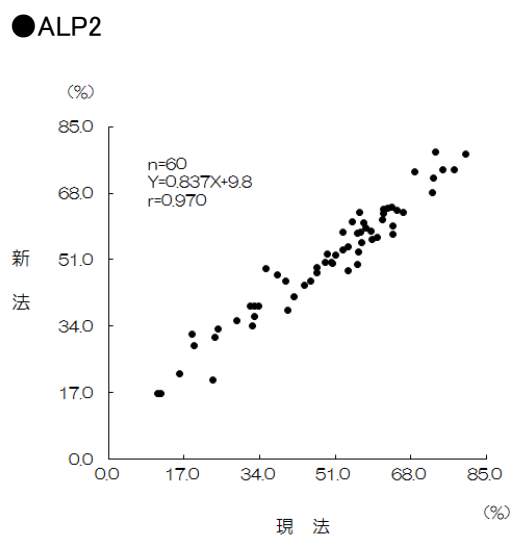
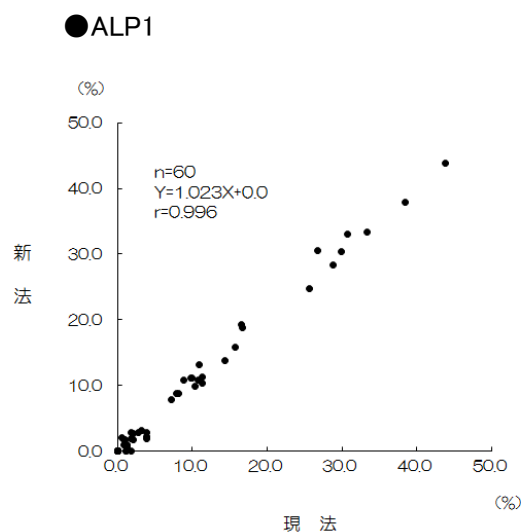
● ALP アイソザイム

日本臨床化学会より発表された常用標準法をIFCC法に変更する基本方針に基づき、IFCC法に準拠した測定試薬に変更。

これに伴い、項目名称、基準範囲が変更となります。

総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
p45	0027-02	ALP アイソザイム	項目名称	ALP アイソザイム (IFCC)	ALP アイソザイム
			基準範囲 (単位)	ALP1 0.0~5.3 ALP2 36.6~69.2 ALP3 25.2~54.2 ALP5 0.0~18.1 (%)	ALP2 36~74 ALP3 25~59 ALP5 0~16 (%)
			報告範囲	0.0~100.0	0~100

▼現法と新法の比較



● 特異的IgE（C-PAC16アレルゲン） アトピー性皮膚炎用

測定試薬終売に伴い、セット内のアレルゲン「ピティロスポリウム」について代替試薬の「マラセチア(属)」へ変更。

総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
p48 p50 表	4443-02	C-PAC16 アレルゲン (特異的 IgE) アトピー性皮膚炎用	検査内容	スギ、ヤケヒョウヒダニ(ダニ 1)、 <u>マラセチア(属)</u> 、カンジダ、ガ、イヌのフケ、ネコのフケ、ピーナッツ、小麦、カモガヤ、カニ、ソバ、大豆、エビ、サバ、イワシ	スギ、ヤケヒョウヒダニ(ダニ 1)、 <u>ピティロスポリウム</u> 、カンジダ、ガ、イヌのフケ、ネコのフケ、ピーナッツ、小麦、カモガヤ、カニ、ソバ、大豆、エビ、サバ、イワシ

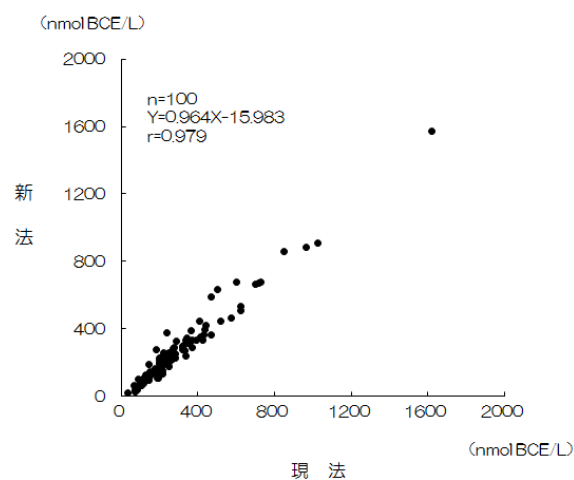
- NTx (I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド)、
- NTx (I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド) (骨粗鬆症)

全自動測定機器へ搭載可能な試薬へと変更。
これに伴い、検査方法、報告範囲、備考が変更となります。

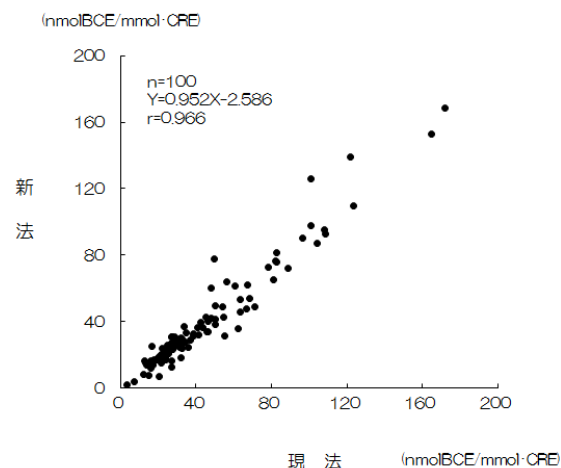
総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
p38	3001-54	NTx (I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド)	検査方法	CLEIA	ELISA
			報告範囲 (単位)	NTx 濃度: 部分尿 15 未満、 15~99999999 (nmolBCE/L) クレアチニン 換算値: 変更はありません (nmolBCE/mmol・CRE)	NTx 濃度: 部分尿 20 以下、 21~99999999 (nmolBCE/L) クレアチニン 換算値: (クレアチニン濃度により異なる) ~999999.9 (nmolBCE/mmol・CRE)
p96	3806-54	NTx (I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド) <骨粗鬆症>	備考	午前中の第二尿をご提出ください。 <u>血尿でのご提出は避けてください。</u>	午前中の第二尿をご提出ください。

▼現法と新法の比較

NTx濃度



クレアチニン換算値



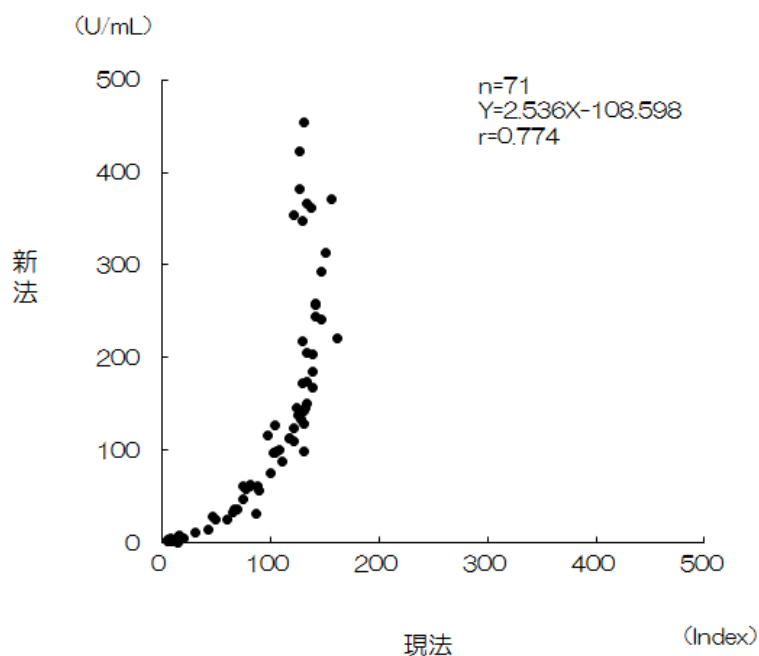
● 抗セントロメア抗体

測定試薬終売に伴い、代替試薬へ変更。

これに伴い、検査方法、基準範囲、報告範囲が変更となります。

総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
p80	3408-02	抗セントロメア抗体	検査方法	CLEIA	ELISA
			基準範囲 (単位)	10.0 未満 (U/mL)	10.0 未満 (なし)
			報告範囲	2.0 未満、2.0~499、 500 以上	5.0 未満、5.0~299、 300 以上

▼現法と新法の比較



● 相関一致表

		現法	
		陰性	陽性
新法	陰性	58	2
	陽性	0	91

判定一致率： 98.7% n=151

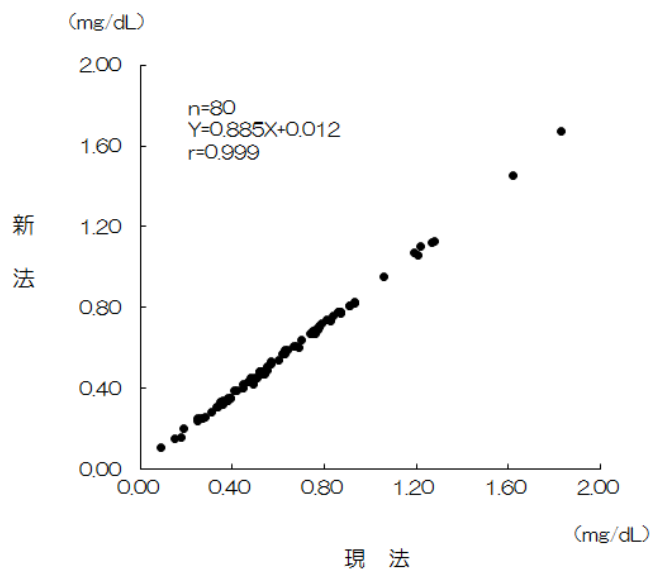
● クレアチン

測定試薬終売に伴い、代替試薬へ変更。
これに伴い、基準範囲が変更となります。

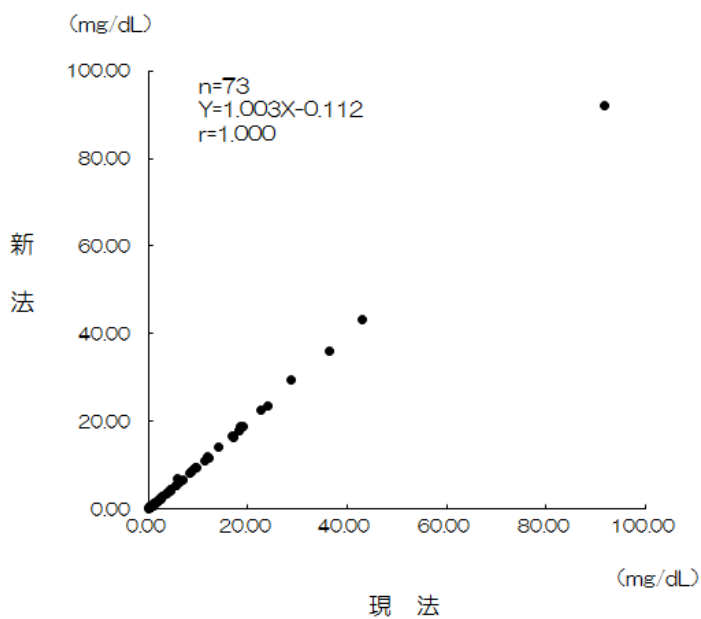
総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
p85	0082-02	クレアチン	基準範囲 (単位)	血清 0.17~1.00(mg/dL)	血清 0.31~1.10(mg/dL)

▼現法と新法の比較

クレアチン血清



クレアチン尿



● ラモトリギン、トピラマート、レベチラセタム、ベプリジル

TDM ガイドラインに準じた基準範囲(治療濃度範囲)、採血時刻に変更に変更。

総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
p98	0936-03	ラモトリギン	基準範囲 (治療濃度範囲)	2.5~15($\mu\text{g}/\text{mL}$)	(設定なし)
			採血時刻	次回投与直前 (Trough 濃度)	(設定なし)
	0973-03	トピラマート	基準範囲 (治療濃度範囲)	5~20($\mu\text{g}/\text{mL}$)	(設定なし)
			採血時刻	次回投与直前 (Trough 濃度)	(設定なし)
	0972-03	レベチラセタム	基準範囲 (治療濃度範囲)	12~46($\mu\text{g}/\text{mL}$)	(設定なし)
	p99	0969-03	ベプリジル	採血時刻	(削除)

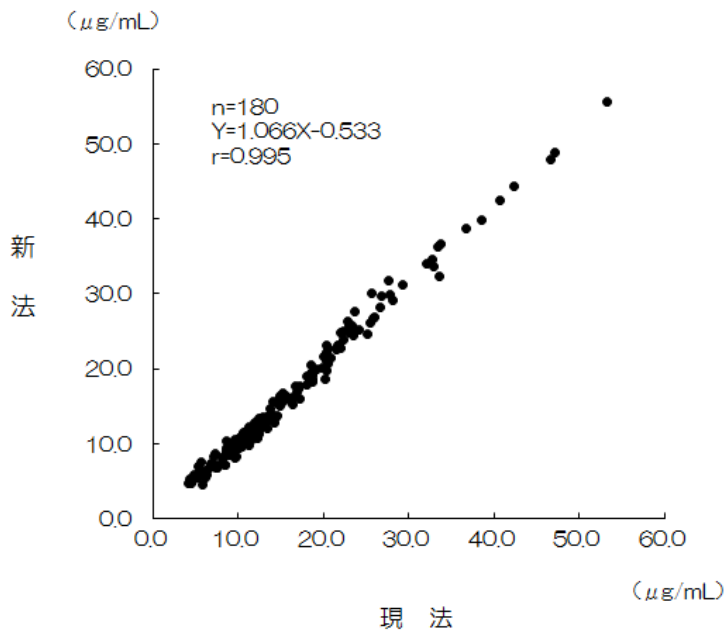
● バンコマイシン

全自動測定機器へ搭載可能な試薬へと変更。
これに伴い、検査方法、報告範囲が変更となります。

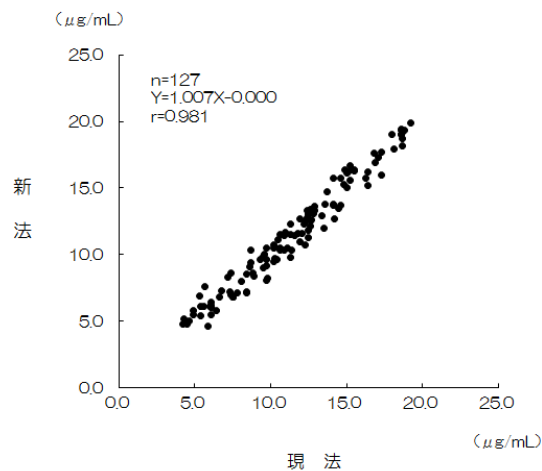
総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
p100	0357-02	バンコマイシン	検査方法	ラテックス凝集比濁法	EIA
			報告範囲 (単位)	2.5 未満、 2.5~999999.9 ($\mu\text{g/mL}$)	4.0 未満、 4.0~999999.9 ($\mu\text{g/mL}$)

▼現法と新法の比較

(全体)



(低濃度領域)



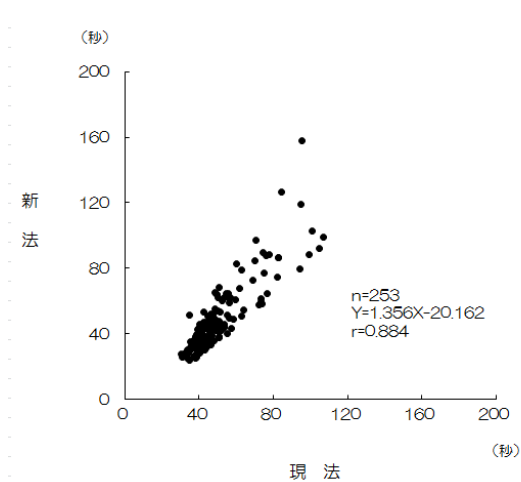
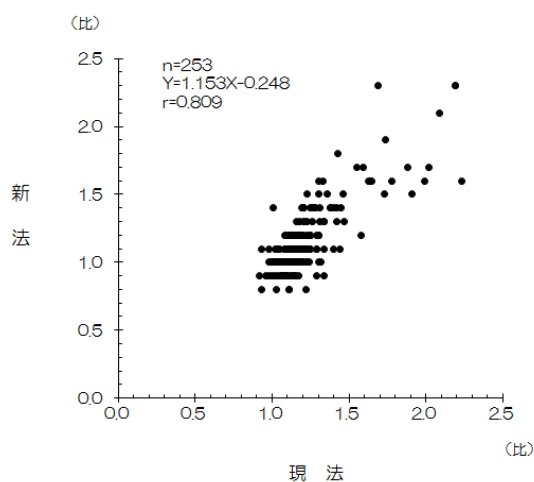
● ループスアンチコアグラント(希釈ラッセル蛇毒時間法)

日本血栓止血学会の推奨法である Normalized Ratio を使用し、同学会の推奨基準値と同等の基準範囲を採用している測定試薬へ変更。
これに伴い、基準範囲が変更となります。

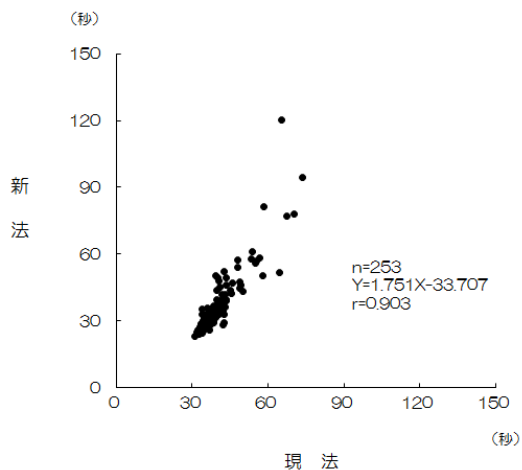
総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現
p111	2715-03	ループスアンチコアグラント	基準範囲	1.2 以下	1.3 未満

▼現法と新法の比較

(比) (中和前凝固時間)



(中和後凝固時間)



● 相関一致表

		現法	
		陰性(-)	陽性(+)
新法	陰性(-)	194	9
	陽性(+)	16	34

判定一致率: 90.1% n=253

総合検査案内頁	項目コード	検査項目	変更内容	新	現	備考
p45	0022-02	LD アインザイム	総合検査案内備考	溶血でのご依頼は避けてください。(溶血の場合 LDH1、2、3 の上昇が考えられます。) LDH5 が多く含まれる検体では、IFCC 法に基づく分画値と乖離する場合があります。	溶血でのご依頼は避けてください。(溶血の場合 LDH1、2、3 の上昇が考えられます。)	IFCC 測定法の IVD 試薬が未販売の為、日本臨床化学会からの通達に準じた案内書備考欄の変更 (注意書きの記載)
p88	0014-02	CK-MB (CPK-MB) <免疫阻止-UV 法>	基準範囲 (単位)	MB 25 以下 <u>TOTAL</u> <u>M 62~287</u> <u>F 45~163</u> (U/L)	MB 25 以下 (U/L)	(記載なし)
			総合検査案内備考	本項目は、TOTAL の CK (CPK) の測定結果も併せてご報告いたします。		
p88	0043-02	リパーゼ	基準範囲	13~55 U/L	11~53 (U/L)	添付文書通りに変更
p32	6454-02	抗 IA-2 抗体	所要日数	3~10	3~7	所要日数の変更
p37	3033-02	CA54/61		3~8	3~7	
p44	0924-02	酸化 LDL (MDA-LDL)		3~15	3~6	
p76	3078-02	クラミドフィラ <クラミジア> シッタシ IgG		3~10	3~6	
	3079-02	クラミドフィラ <クラミジア> シッタシ IgM		3~10	3~6	
p80	3864-02	抗 LKM-1 抗体		2~9	2~6	